

8万人首切り=「61・11ダイ改」の概要提案

“分割・民営化への総仕上げ”をうとぶ政府・当局に、今こそ全国鉄労働者の怒りの総反撃叩きつけろ



86. 4. 14

No. 2215

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄当局は、四月十一日、「61・11ダイ改」の概要提案を行ってきた。国鉄最後のダイ改と言われるように、その内容は「61・3」での三万人につづき、八万人に及ぶ大要員合理化で「62・4・1」に分割・民営化を目指したものである。国会審議の開始、広域配転、「企業人教育」も含め、敵の攻撃は、ほぼ出そろった。いよいよ本格的決戦だ。全国鉄労働者の怒りの決起を必ず実現し、「分割・民営化」一十万人首切り阻止、「61・11ダイ改」粉碎へ総決起しよう。

「分割・民営化を前提」の大合理化許すな

提案は、「より速く」「より便利で身近に」「より効率的に」にプラスして、「活用ある事業活動」を目指す、「分割・民営化」へ向けたものであることをうたっている。

商業新聞やマスコミは、これを受け、ダイ改によって、①東海道・山陽新幹線のスピードアップ、②在来線特急の充実、③大都市、主要都市での通子通勤・昼間帯列車の増発が行われる。これは、国鉄再建監理委員会が、これからの鉄道の生きのこる道としてあげた中距離都市間輸送、通勤・通学輸送の充実を前面に打ち出したもの。

分割・民営後の新会社での地域密着、サービス向上への布石と大きく評価している。

恐るべき労働強化と運転保安無視——大事故は必至だ！

しかし、今次ダイ改は「61・3」をもうわまる恐るべき内容である。「より速く」、「より効率に」の中身は「61・3ダイ改」につづき、主要線区において曲線通過速度、分岐器通過速度の向上、及び余裕時分、停車時分の見直し、短縮をはかるといふ恐るべき運転保安・安全の無視を前提としており、さらに車両数の縮減、車両検修基地の統廃合も提案されておき、一歩まちがえば大事故の危険がますます増大する内容となっている。

8万人首切り絶対阻止 今夏ノ秋総反撃にたとう

そして何よりも、八万人の余剰人員を生みだすため、乗務員基地の統廃合、車両検修基地の統廃合、作業体制、勤務体制の全面的見直し、動力車乗務員等の運用の効率化が目論まれ、貨物についても九七の取り扱い駅（フロント業務）の廃止（千葉では、新小岩操、西船橋、銚子、蘇我、君津）、乗務員、車両基地の統廃合、乗務員運用の効率化など全面的な基地統廃合や「61・3」をうわまる業務移管を軸に「60・3」を大きくうわまる乗務効率の見直しという許すべからざる内容となっている。

われわれは、「61・3」でストライキを軸に一カ月の闘いを貫徹し、国労との事実上の共闘をつくりだすなかでダイ改が妥結できないところまで当局をおいこみ、今後のダイ改阻止闘争の展望を切り拓いてきた。

今こそ、この成果にふまえ、最大の焦点であり、首切りと強労働—運転保安を徹底的に無視した「61・11」ダイ改阻止へ、全国鉄労働者の怒りの決起をつくりあげて行こうではないか。

4月後半スケジュール

- 14日 不当処分撤回「確認書」公判
- 15日 総務・財政担当者会議
- 17日 1回「中野」控訴審
交渉部長会議、老人保険法改定
- 18日 不当処分撤回「警告書」公判
- 19日 リムパック反対構須賀集会
- 22日 被解雇者激励会
- 23日 青年部「労働講座」
- 24日 組織部長会議
- 25日 不当処分撤回「仮処分審尋」
- 26日 護憲集会
- 29日 天皇60年式典反対集会